

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	事務作業と財源
研修の目的	行政計画に付随する事務作業に関する理解を深める。
所 感	<p>行政計画には切っても切れない事務作業があります。無駄な配置や効果的な工夫など、あらゆる角度から学びがありました。各自治体の事例をもとに事業シートを確認。事務事業評価の個票など必要な書類がある。PDCA サイクルで確認。KPI 指標が最終目的に対して有効である。</p>
今後の参考となる事項	<p>事務作業の見方 事務作業の目的・目標～どんな課題解決のための事務作業で、どんな成果を目標にしているのか。目標は数値化されているか。など 事務作業のコスト～事務作業にかけた費用と財源(一般財源)。成果をより効果的に上げるための工夫はあるか。 事務作業に携わる人員数～人的資源の配分は適切に行われているかなど。 事務作業の連携～他部署と連携がとれているか。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	相手にされない議員にならないために
研修の目的	議員として注意する点を学ぶ。
所 感	<p>当局の本音をたくさん聞くことができました。地方議会の基本的な考え方など議員としてしておいた方がいい内容ばかりでした。近年増加する地方議会の課題など、今後も多様化する価値観に対して、住民の意見を反映しながら合意形成を行う場となる議会の役割は一層重要になる。議員の役割、多様な層の住民の参画について、今後とも幅広く検討を進めていく必要があると感じました。</p>
今後の参考となる事項	<p>1 期 4 年で基礎学習。2 期目で政策につなげる学習。的確な質問・質疑をする議員はリスペクトされる。一期目だからこそわからないことを素直に聞く姿勢を持つこと。役所が見落としがちな住民の意見を集めよう。良い質問をするには準備がすべて。 良い仕事とは、顧客を満足される成果を上げること。 良い質問とは、住民全体の『福祉の増進』に関して成果を出すこと。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 住民が必要とする行政サービスを創設する。</li><li>② 住民の行政に対する疑問に対して回答を示す</li><li>③ 住民の知らない行政の重要な情報について開示される</li></ol>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	～役所を動かす質問の仕方～何が役所を動かすのか
研修の目的	一般質問の質を高めるため。
所 感	<p>執行部の本質(本音)を具体的に説明してもらった。極論、役所を動かすには、地域社会の『民意』を吸い取って執行機関が動きたくくなるような『共感』を生むようにする。私はこれからも政策提案型で一般質問をしていきたいと思う。そのためには、今起こっている事実を正確にとらえていくこと。現状で解決できていない課題を明確にすること。仮説を立て提示すること。仮説が正しいかを検証する。</p>
今後の参考となる事項	<p>議会は地方自治体のすべての活動を決定する代表機関(議決権) 本来、議会が政策をリードできる→政策提案する議会へ(議会改革) 一人ひとりの議員に決定権限はない。議会の構成員として議会の議決権行使を相対的に正しい方向に向けることが議員の仕事と言える。執行機関は基本的に保守である。 一般質問の種類にも、政策提案型と責任迫及型がある。 質問を通じて執行部と一緒に政策・施策を作っていくイメージを持つこと。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	～役所を動かす質問の仕方～政策提案型質問の作り方
研修の目的	政策提案型の質問を理解する。
所 感	<p>政策提案型の質問を作成する大前提として、現状認識と課題解決が必須である。課題への共感があって初めて役所は動く。仮説を設定してみるのも良いと思うが、それには知識と情報が必要だとわかりました。現状→課題認識→仮説→検証(他団体の事例)→提案でやっていくといい。検証は住民に聞く、専門家に聞く、先進自治体に聞くことを意識してみようと思いました。</p>
今後の参考となる事項	<p>現実に起こっていることを執行部と共有する。共有するためには、客観的データまたは、議員自ら取材した生の事実が必要である。できるだけ多くの事実を拾い上げることでエビデンスの強さが増す。足で稼ぐのが議員の基本。情報源の信ぴょう性も大切である。</p> <p>課題認識が最も重要である。</p> <p>正確な現状認識から現制度や地域事情を踏まえた課題認識であれば共感を獲得できる。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	予算の見方
研修の目的	予算の見方を理解する。
所 感	<p>予算から見る全体像を把握する。主要政策と主要施策、それに伴う事務作業を見積もる。この束を目的別に分類。具体的な市町を参考に予算決算時に必要な事業シートの見方を学びました。見るポイントは PDCA サイクルのそれぞれにある。アウトカム評価も必要である。</p>
今後の参考となる事項	<p>予算とは『財源』と『事業計画』である。予算とは『財政計画』である。 議員として実現したい事業を予算化するためにはどうしたらいいか。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 課題をいかに現実のものとして提示できるか</li><li>② 自分の足と目で確認した事実であるか</li><li>③ 現状の制度とのギャップ(課題)を提示できるか</li><li>④ 提案する場合は課題解決の効果を検証できているか</li></ol>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	予算の仕組み
研修の目的	予算を理解する。
所 感	<p>一般財源と特定財源を改めて理解し、それに伴う事務作業を算出し予算の積算していく。使えるお金、優先順位、事務事業費を支出の目的別に款項目節に分類してまとめたものが予算である。財政の弾力性を上げていく。それは財政にどれだけ余裕があるかないか。の指標を理解する。</p>
今後の参考となる事項	<p>会年度独立の原則、総計予算主義・事前議決の原則から、予算編成は該当年度の歳入の総額を見込み、すべての歳出を決定し、議会に提案することになる。＝入りを計りて出ざるを制する。歳入は『性質別』歳出は『目的別』で分類する。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	財政の見える化(決算カード)について
研修の目的	決算カードに関しての理解を深める。
所 感	<p>健全化財政比較は『倒産会社』を判断するものであり、持続可能な財政状況を確立するための適切な手段を示すものではない。自立した財政運営(起債に許可が必要ではない)を継続するためには、健全化判断比率だけではなく、自団体の現状の財政状況を客観的に把握する必要がある。</p>
今後の参考となる事項	<p>『決算カード』で検索すれば全国の自治体の直近の決算状況が閲覧可能である。</p> <p>① 地方財政制度②自治体の財政構造を知る。③自治体の財政指標を知る。決算カードで類似団体の財政構造、財政指標を比較。</p> <p>類似団体間での財政指標比較は『財政状況資料集』で概観できる。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	決算審査のアプローチ
研修の目的	決算審査を理解する。
所 感	<p>一年を通して決算時期のタイミングや流れを学びました。予算編成が10月から始まるため決算を次年度予算に反映させるには9月中の審査・認定が望ましい。しかし実際は決算審査の権能を十分に発揮できていない自治体が多いことが分かった。議会軽視とも受け取れるのが残念だ。具体的な自治体の説明資料を元に説明を受けました。</p>
今後の参考となる事項	<p>決算審査の視点①持続可能な財政状況にあるか(財政の健全性) ②事業の成果は上がっているか。改善すべきところはないか。(施策の効果と改善) ③違法不当な収入・支出はないか。(財務・財産管理・会計処理の適正性) 決算は予算の支出がされたかどうかの確認程度の認識で予算編成が決算審査を踏まえずに行われている実態がある。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。



## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	決算審査のアプローチ
研修の目的	決算審査をより深く理解する。
所 感	<p>一般財源と特定財源の割合は、税金が多い団体と少ない団体で異なる。財政運営をコントロールするために指標を持っているかが大切になる。類似自治体の特長の説明を受ける。経常収支比率の目標値を決めると社会保障費が増加するなかで人件費の圧縮を考えざるを得ないため、定員管理目標の設定値をチェックしていこうと思います。</p>
今後の参考となる事項	<p>『持続可能』とは、会計的に破綻するかどうかだけでなく、住民ニーズに現在、将来共に的確に対応することができる財政状況であるということを用いる。決算審査の法廷資料では他団体との比較はできない。分析資料は過去の年度の『決算カード』と『財政状況資料集』</p> <p>決算カードの見方(歳入状況)、経常一般財源＝税＋地方交付税＋地方譲与税＋各交付金 一般財源＝使途が定められていない財源(自由に使えるお金) 経常一般財源＝毎年決まって入ってくる自由に使えるお金 特定財源＝補助金＋地方債＋手数料＋使用料、使途が決められている財源(自由に使えない)</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	議員が知っておきべき財政の話、中級編
研修の目的	持続可能な財政健全化に関する理解を深める。
所 感	<p>政府は以前より国と地方を合わせた基礎的財政 収支（プライマリーバランス）の黒字化を目標にしている。国と地方の間には巨額の財政移転が存在しているため、国や地方自治体の歳出を効率的なものとし、また、歳入と歳出とのバランスを未来にわたって持続可能なものとするには、国の財政だけでなく、地方自治体の財政も改革する必要があると感じた。</p>
今後の参考となる事項	<p>基礎的財政収支を表すプライマリーバランス）は、新規国債発行額を除いた歳入総額（税収・税外収入）と、国債費（国債の元本返済や利子支払いにあてられる費用）を除いた歳出総額（政策経費）との収支（バランス）で、国の社会保障や公共事業、防衛、地方交付税交付金などの財政経費が、毎年の税収等でどの程度賄われているかを示す指標となっている。財源の理解、国と県、地方自治体の持続可能な財政の全体の勉強になったので、今後、財政課の当局と話すときも踏まえて話が理解できそうである。</p>

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	質問力 2. 行政サービス・政策の課題や成果を質問する
研修の目的	市の方向性、舵取り、当局の狙いを伺い、客観的にみて判断する目線を身につける。
所 感	<p>政策全体から枝分かれしている行政サービスを客観的に判断し、その狙いや進捗などの報告を求めるためにも今回の講座は大変勉強になりました。当局の立場、市民の立場両方を理解した上での確な質問を時間内でしていきたいです。</p>
今後の参考となる事項	<p>日頃、身近にある行政サービスだけでなく、市民がそれほど周知していない行政サービスもある。如何にわかりやすくその狙いを確認したり、政策の抜本的な見直しも含め、議員としての視点を学ぶ。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第一講 財政とは何か
研修の目的	当たり前だがどの事業にも予算があり、財政というものをきちんと理解しなければ政策の全体像が掴めないため受講しました。
所 感	財政の知識は政策のための手段(ツール)であり、原則として解答はない。だからこそ、自分で考えるための武器として財政を学ぶことは必須である。という講師の言葉が頭に残りました。持続可能な事業を展開するためには歳入と歳出のバランスが大切である。
今後の参考となる事項	財政の源は市民の税金である。議員は住民の声の代弁者であり政治の専門家として大所高所からも政策と財政の在り方を考える責務がある(民主主義の土台としての議会) コロナ禍で国も自治体も大きく税収が減っている。これを補うのは借金(国債と地方債)を増やすしかない。予算と決算はどちらが大切か。大切なのは住民ニーズに応える実施方針(予算)であって、収支結果(決算)ではない。 一般会計～一般的な住民サービスを行うための普通の財布。 特別会計～一般会計とは区別して収入と支出を管理するための特別な財布。

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第二講 歳入の基礎編
研修の目的	歳入に関して全体像を把握する。
所 感	<p>歳入を家計に例えて説明してくれ、とても分かりやすかったです。一般財源がなぜ大切なのかは自治体がやりたい施策を実行できるからである。一般財源が入ってこなければ特定財源が入ってこないことを理解しました。</p>
今後の参考となる事項	<p>家計で例えて理解する。 歳入は・・・ 地方税は『給料』である。 地方交付税は『義務的な仕送り』である。 国庫支出金(補助金)は『プラスαの仕送り』である。 地方債は『住宅ローンと同じ』である。 一般財源～自治体が自分で用途を決めることができる財源(地方税、地方交付税等) 特別財源～用途が特定されている財源(国庫支出金、地方債等)</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第三講 自治体の借金を理解する
研修の目的	借金に関して理解する。
所 感	税率に関しては少し難しいので、何度も見直す必要があると感じました。一度聞いただけだとなかなか理解が難しいのが率直な感想です。
今後の参考となる事項	税金の種類と税率は議会が決めている。地方税は法律によって大枠が決められている。地方税法で決められているのは税金の『種類』と『税率』である。  地方税まとめ 住民税、 $\text{税収} = \text{所得} \times \text{税率}$ 固定資産税、 $\text{税収} = \text{資産(土地・家屋・売却資産)} \text{の評価額} \times \text{税率}$ 地方消費税、 $\text{税収} = \text{課税売上高(税抜き)} \times \text{税率} - \text{課税仕入れ高(税抜き)} \times \text{税率} - \text{一定税率(標準税率 2.2\%、軽減税率 1.7\%)}$

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第四講 地方交付税
研修の目的	地方交付税に関して理解を深める。
所 感	地方交付税の本質は『ペットボトル』と『お茶』の関係と講師が話していたが、地方税と地方交付税は切っても切り離せない関係であり、一般財源にも大きく関わることがわかりました。それにより自治体の標準的なサービスが賄えることになるため、理解したいと思う。
今後の参考となる事項	地方交付税は地方税とセットで考える。 一般財源 $\equiv$ 地方税+地方交付税 一般財源は自治体の標準的なサービスを賄うためのもの 基準財政需要額とは、国は各自治体それぞれに応じた一般財源の金額を設定すること。 自治体の地方税が不足している分を国が地方交付税として交付する。

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日 の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第五講 自治体の公共施設への向き合い方
研修の目的	市の公共施設に関して理解を深める。
所 感	<p>さいたま市、浜松市、堺市、北九州市の事例を聴き、ハコモノの利活用や削減、見直し、様々な取組を聴くことができた。ここ数年、焼津市も新しく公共施設の建設が多いが、今一度、財源の使い道を再確認する必要があると感じました。</p>
今後の参考となる事項	<p>さいたま市『ハコモノ三原則』、新規整備は原則として行わない(総量規制の範囲内で行う)施設の更新(建替)は複合施設とする。住民参加型のワークショップ方式。</p> <p>浜松市は公共施設の削減に取り組んだ。施設評価により各施設ごとの職員数、支出、収入、利用状況、光熱費などの過去5年間分の情報を記載した『施設カルテ』を作成。</p> <p>堺市は公共施設の再寿命化を重視し財源負担を削減。</p> <p>北九州市は都市計画と公共施設マネジメントを統合し、門司区をモデルプロジェクトとして公共施設の再配置(統廃合・複合化)を行う。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。



## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第六講 自治体の借金を理解する
研修の目的	自治体の借金に関して理解を深める。
所 感	<p>財政は黒字化していればいいわけでもなく、バランスが大切である。財政調整基金に繰り越しして次年度につかえるお金として持ち越したり、単年度で財政を見る力を養っておこうと思います。とにかく数字に慣れるには常に見ていかないといけないと感じました。</p>
今後の参考となる事項	<p>特別会計等の借金も重要である。借金は一般会計だけでなく、公益企業や一部事務組合などにもあり、自治体はそれらを含めた借金の総額をみることも必要である。</p> <p>一時借入金はつなぎの借金。</p> <p>地方債の問題点は、絶対的・相対的に無駄な施設整備や土地購入を行うこと、また将来の財政の負担能力を考慮せずに地方債を発行するということである。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第七講 地方債
研修の目的	地方債に関して理解を深める。
所 感	<p>地方債は決して悪いことではなく、住宅ローンと瓜二つという。 地方債で債務が増えること自体は問題ではなく、借金で当座のお金が必要にならないため、安易に依存しがちになるので要注意であると感じた。</p>
今後の参考となる事項	<p>自治体が借り入れる借金のうち、返済が 2 年度異常にわたる債務。 コロナ禍での地方債の焦点。令和 2 年度第三次補正予算では、地方消費税、地方交付税交付金等についても減収補填債の発行対象とする特例措置が設けられる。 債務負担行為ともう一つの長期的借金である。 数年度間にわたって発生する予定の金額をあらかじめ記しておくこと。将来の財政支出を約束するものである。 夕張市の財政破綻は、一次借金を用いた会計官の不適正なやりくりによって引き起こされた。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3年 10月 30日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第九講 財政の黒字・赤字
研修の目的	財政の黒字・赤字に関して理解を深める。
所 感	<p>財政は黒字化していればいいわけでもなく、バランスが大切である。財政調整基金に繰り越しして次年度につかえるお金として持ち越したり、単年度で財政を見る力を養っておこうと思います。とにかく数字に慣れるには常に見ていかないといけないと感じました。</p>
今後の参考となる事項	<p>財政にとって黒字が大きいことはよくない。自治体の財政運営の目的は『利益を上げる』ことではなく黒字が多ければその分を住民に還元しなければならない。しかし、財政にとって赤字(収入&lt;支出)は避けなければならない。</p> <p>財政の黒字は基金に積み立てることで将来の財政運営の安全を確保することも大切である。基金の種類は3つ。①財政調整基金(年度間の財政調整のための基金)=普通預金②減債基金(地方債を償還を計画的に行うための基金)③特定目的基金(その他の特定の目的のために設置される基金)</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。

## 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 3 年 10 月 30 日の下記のことについて、研修を USB 録画にて学んだため、概要について報告いたします。

研修名	第十講 新型コロナと自治体財政
研修の目的	コロナ禍での自治体財政に関して理解を深める。
所 感	<p>危機的な財政状況にある我が国は、新型コロナ感染防止、経済回復に加え財政健全化という三兎を追い、そのいずれも実現しなければならないという厳しい局面である。財政支出を増やせば持続可能な経済成長が起きるといった単純な話ではない。財政支出が必要な場合には効果的・効率的な支出となるように、選択と集中・ワイズスペンディングの考え方を徹底するべきだと感じました。①地域の暮らしや発展のための方向性を見定める。②そのために必要かつ適切な自治体政策を立案する。③絶えず財政状況をチェックしていかなければならない。</p>
今後の参考となる事項	<p>コロナ禍で全国の主要都市の税収が軒並み減収している。とくに令和3年度は、市税が顕著に現れている。</p> <p>自治体の税収減への対応</p> <p>国の財源措置の正確な理解と活用が求められる。(減収補てん債の特例措置、執行特例債、特別減収対策債、特別減収対策企業債などがある)</p> <p>財政の持続可能性＝赤字に陥らないこと。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。